



第 79 号
発行日 平成 28 年 3 月 19 日
発行所 大分県要約筆記サークル
「陽ざしの会」
事務局 野上 千賀子
(Tel.097-532-6850)
(HP <http://hizasi.web.fc2.com>)

～平成27年度

皆様のご協力に感謝いたします～

役員挨拶

< 事務局 野上 千賀子 >



27年度もいよいよ終わりを迎えました。

ほぼ年間計画通りに行事を遂行することができたのは、会員みなさんのご協力があったからだ感謝しています。

森崎会長が9月25日に逝去し半年が過ぎました。

そんなに早く逝ってしまうとは、会長自身が一番考えていなかったと思います。私もまだ会長の死は信じられず、どこかに出かけて留守をしているような気持ちでした。だから先日学習会で会長の声が録音されたCDを聞いた時、半年ぶりの会長の声がとても懐かしく、「ああ、やっぱり森崎さんは逝ってしまったんだなあ」と初めてその死を実感して悲しさが込み上げました。

私が6年間事務局を務めることができたのは、森崎さんが会長としてすべてを飲み込んで自由にやらせてくれたからだと思います。人の気持ちに鈍感な私が、少しは人の気持ちを気遣うことを学べたとしたら、この6年間は人生の中でかけがえのない時間であったと感じます。

貴重な経験をさせてくれた「陽ざしの会」に感謝して、今年度最後のご挨拶に代えさせていただきます。

< 会計 山口 智子 >



今年初めて役員として、会計を務めさせていただき、会員全員分の会費をお預かりするという、現実にはじわじわとプレッシャーを感じました。

ほとんど事務局の野上さんに手伝っていただいたので、お役に立てたのか心配です

お互いの立場を思いやって

「サマシ」 「サマシ」 「サマシ」 「サマシ」





< 企画部 小野 和子 >

今年度初めて企画部を担当させていただきました。
秋の交流会では、シャーロットで話題の高崎山と別府の地獄蒸しを体験、近場でありながら、意外と知らない地元の観光地を散策。段取りの悪さで皆さんにご迷惑もおかけしましたが、帰りのバスの中で「楽しかった」と言っただけ何よりでした。

数少ない会員交流の機会、今年度もぜひ皆さん、参加いたしましょう。ご協力ありがとうございました。



< 研修部 朝山 美香(手書き)・平野 美佐子(パソコン) >

2年前、手書き研修部長をやってもらえんやろうか、と声をかけてくれた森崎さんを思いながら、この1年間の活動を振り返ってみました。

よかったところ、反省するところありますが、今年の実験を次にいかし、残すべきノウハウ、変えなければいけない方法をみんなで考えていけたらよいと思います。

研修部のみなさん、ご協力いただいたみなさんに今年も感謝の気持ちでいっぱいです。新年度、気持ちを新たにそれぞれのスタートがきれたらよいですね。

< 広報部 久松 久仁子 >

この79号で今年度、3回目の広報紙配布となります。みなさん、読んでいただいてありがとうございます。

今年度は、中園氏の講演会、そして故、森崎さんのことなど、大きな出来事が押し寄せてきた中で部員の皆さんをはじめ、会員の皆さまの原稿依頼へのご協力に支えられ、励まされ、何とか無事に年度末を迎えることができました。

本当にお世話になりました。



来年度も、陽ざしの会の活動にご協力をお願いいたします！

* 当会会長の森崎裕香子さんが平成27年9月25日に逝去されました。

ここに改めまして、故人のご冥福をお祈りいたします。





大分県難聴者協会

新年会

日時 H28. 1. 17

会場 天まで上がれ都町店

難聴者協会会長の保原さんの挨拶のあと乾杯で始めました。



しばらくは食べて飲んで近況報告、難聴者協会の小倉さんが準備してくれた、「しりとり」開始。



小さなホワイトボードを使って自己紹介をしながら答えを書きました。

ぶんご梅

友を訪ねて

小野 和子



先日杵築の友人を訪ねた。彼は東京での学生時代の同級生なのだが、実は大分には縁もゆかりもなく東京生まれの東京育ち、それも都心のご真ん中、小・中学はコンクリートのグラウンド、土の場所は汚いと思っただろう。それが、数年前仕事で訪れた大分で、たまたま空港から市内への道中で立ち寄った杵築の海辺の風景に魅了され、すぐに土地を買い住みつき七、八年。

住吉浜のすぐ横の海岸に（すぐ目の前が海）、コンテナハウスを建て、馬や猫とともに暮らし、日の出とともに船を操り海に出、魚を釣り、それを近所の方の農作物と交換したり、地元の農作業を手伝ったりして自給自足のような生活を送っているらしい。正直気ままな自由人というか変人の部類に属するのかもしれないし、そのような生活を誰もが望むとは言えないが。

ただその日もう一人東京からやってきた友人と三人で、食事をし、地元のお祭りにでかけ、夕方船を出してもらったのだが、杵築の海から見た沈む夕日の美しさには私もたいそう感動してしまった。見慣れた別府湾の風景のはずなのに、こんなに美しいと感じ、ただ陽が沈むのを見つめたことがあっただろうか。

彼が力説する大分の良さ、温泉、海の幸、山の幸、物価の安さ。そして地元の人との密接な付き合い。大分人である私には気恥ずかしいくらいの大分ボメであるが、改めて大分の豊かさ、すばらしさを教えてもらったような一日だった。

ぶんご梅は創刊以来続いている会員のエッセーです。

平成27年度 第2回登録要約筆記者研修会

平成27年度第2回登録要約筆記者研修会が平成28年1月31日（日）に開催されました。

今回の登録研修会では、午前は、派遣の時のリーダーの役割りについてをグループごとに話し合いまとめて発表しました。「準備」、「メンバーへの連絡」、「主催者にあいさつ、打合せなど」「機材設置」「片付けから反省まで」などなど、細かく考えていきました。リーダーの役割りについて学習会でも是非やってほしいと思いました。

午後からは事例検討でいくつか検討しましたが、その中でも衝撃を受けたのは表彰などで名前を活字にしておいてOHCの一時停止を使って次々に呼ばれる名前を入れ換える方法でした。

入れ換える時のバタバタ感を全く感じさせない技で、思わず歓声上がるくらい感動しました。

登録研修会での事例検討は出来るだけ参加して自分の目で見て考えることが大事だなあと改めて感じました。



茶話会



2/14(日)バレンタインデーに茶話会がありました。保原会長から逆バレンタインデーでチョコをいただいてチョコの健康作用のお話しに発展、健康繋がりです。そして来年1月に開催の講演会についてのお話し、詳しくは改めて連絡がありますのでお手伝いも兼ねて参加したいですね。講演会の中で要約筆記の紹介もしてくれるそうですよ、楽しみです。

要約筆記の勉強部屋 Part11

～筆子の覚書～

前回はお休みでしたので、お久しぶりの筆子です。連載11回目ということは、丸4年やってるんですね～、早いなあ。光陰矢のごとしとは、このことですね（笑）。さて、第5回全国統一要約筆記者認定試験が2016年2月21日行われました。私、筆子も3回目の挑戦です。「いい加減合格しろよ、勉強しないと受からないぞ！」と心の声は日に日に大きくなってきたのですが、それと反比例して、体が動かないという、まるで受験生のような(?)日々でした。来年も受験することになるのかしらん。



まず、技術問題をご紹介します。



手書きはノートテイクとロール1問ずつと、例年通り。ノートテイクは、共有情報として毎回資料が配布されます。2問目の問題は、テーマが「路地裏の戦後史」

でしたので、戦後の苦労話かと思いきや聞き始めたら、「AKB」という言葉が聞こえてきて、「どういうこと?」と、しばし混乱（汗）。6回の続きものの、最終回の最後の内容です、という説明を思い出し、「話は平成まで進んでいるのね」と思い直して書き始めました。



もうちょっとテーマから連想できる内容にして欲しかったです。



パソコンの問題で覚えているのは、「水中考古学」の話。面白い内容だったので、入力しながら、「へ～、そんな考古学もあるんだなあ～」と感心してしまいました。

水中は外気から断絶しているので、遺跡の保存状態がいいとか。「そりゃそうだ」と思いながら、つい聞き入ってしまいました。手書き、パソコンとも、話し手の方の話し方がゆっくりだし、雑音もなかったので、聞きとり易かったです。

筆記問題はどうかだったの?



今までと、また違った傾向だったよ。

筆記問題は、過去4回の問題から一步進化したような、「ここをこんなに掘り下げる?」と思うような内容でした。テキストを隅から隅まで頭に入れとかなないと、はっきりとした答えが書けず、なんとかな～覚えているというレベルでは、太刀打ちできませんでした。

試験前に、補完テキストが販売されていたとか。そこからの出題が多かったのかしら・・・



聴覚
障害
の
基礎
知識

今年も、オーディオグラムが出題されました。オーディオグラムで測定された聴力では身体障害者の認定外だが、語音明瞭度が50%の場合、認定されるかどうかといったものでした。ちょっとヒネった出題ですよ。

そして、耳小骨について、かなり掘り下げた問題が・・・
鼓膜との面積比が重要な骨はどれか、てこの原理を利用しているのは、どの骨とどの骨か。



左から、つち骨
きぬた骨、あぶみ骨

耳小骨はつち骨、きぬた骨、あぶみ骨でできているのは覚えているものの、「どれとどれがてこになってるんだっけ？あれ～？」と、耳小骨の図が頭の中をもやもや～とよぎっていきました。

そういえば、これまで耳小骨の問題は出てなかったですね。完全にヤマがはずれたと自覚した瞬間でした。

もうひとつ掘り下げた問題は、人工内耳と補聴器。
人工内耳手術で埋め込まれている部分の名前を問われました。
また、補聴器で耳にあったオーダーメイドの耳栓の名前、
選択問題だったので、イヤチップかイヤーマールドか、
どちらかを選択すればいいというのはわかりますが、
さてどっち？



これがイヤーマールド



その他の問題の傾向はどうだったんでしょうか。

法律の問題が多かった気がします～泣



要約
筆記
の
基礎
知識

そして、今年の筆記試験のヤマバの対応問題です。今年も残り時間との戦い。文字数制限があるので、範囲内に収めていくのが一苦労です。

1 問目の問題は、派遣現場での対応。講演者はまだ来てない状況。主催者から本（だったかな？）を渡され、講演者が講演内で引用するが、内容は未定、どの箇所を引用するか、わからないとのこと。

あなたは、主催者へどう説明しますか？説明する口調で80～100文字で記述せよ、というものでした。話し口調で、わかりやすく、優しく、失礼にならないような表現にしなければいけないので、よけいに難しく感じました。

2 問目の問題は、ノートテイクでの対応。利用者は席をはずしています。講師から先週渡したプリントを持ってきているか筆記者に尋ねてきたので、「利用者がいないのでわからない」と答えたのに、「本人に確認して持ってくるように伝えて」と言われた時の対応は？というものでした。

「ありそうな場面だな～」とってしまいました。

ノートテイクの現場では、筆記者は介護者や保護者だと
思われることが多いのしょうね。

さて、大分での受験者は1年目以降、激減中。
今年も10人に満たない状況です。派遣に必要な資格と考え、ぜひ皆さん、受験して欲しいと思います。
全員合格を目指し、頑張りましょう～！



全国統一要約筆記者認定試験がおこなわれました

2/21(日)2015年度の認定試験が行われました。13時から説明、試験開始です。
筆記試験が60分、休憩の後、手書きはノートテイクとロール、パソコンは手書きが終わってから一人入力2問の実技試験を行います。
試験を受けた方の感想を伺いました。
(氏名はご本人に配慮し、伏せています。)

ふーにゃんさん

試験を受けてみて筆記試験がとても難しかったと感じました。仕事をしていると思った通りに勉強は出来ません。

とにかく、穴埋めの答えを頑張って埋めた感じでボロボロです。

実技試験は仕事でもやっているのので何とかなると思っていました。テーマは確か1つは海底遺跡もう1つは社会福祉のお話でした。出来るだけ細かくログを上げて文の完結に「。」を忘れないように注意しました。最後の文章を終わらせようと頑張ったのに1文字多く打ってしまい、それがショックでした。



今年度も認定試験の対策勉強会をしていただくことができました。有志で講師をしていただいた方たちは真剣になってビシビシと、そして優しく教えてくださり、私たちは感謝の気持ちで一杯です。試験を受けない方も参加しての勉強会ですが、お互いに悪い癖を指摘しつつ改善すると誉め合い、確かに腕をあげたと言っていただきました。本番で力を発揮できるかが問題ですが、精一杯がんばります。

久松久仁子



☆私のかわりに
以下の番号に電話をください。



～森崎裕香子さんへ捧ぐ～part 2

ありがとうございました

いつのまにか、陽ざしの会に入って7年になります。その間、森崎さんと一緒にいた時間が、あまりにも少なかったことに気づかされました。

それなのに、いっぱいお世話になったことがいろいろ思い出されます。

森崎さんのことは多くは知らないのですが、とても細やかでいながら小さなことには拘らないおらかな印象があります。

私の口からポロリと出るグチや失敗した話に、特別な言葉とかもなく普通にさらりと返してくれました。でもなぜか、その普通の言葉でどれだけ心が落ち着いたことか元気になれたことでしょう。

人の心に寄り添ってくださる人だった。そんな気がします。

でも、もう遠いところへ行ってしまわれました。寂しいです。

ありがとうございました。



神田れい子



森崎会長へ



森崎会長へ

せっかく月例会に顔を出しても、『待つ人のいなくなった家に帰るような寂しさ』を感じているのは私だけではないでしょう。

森崎会長の周囲を和ますあの笑顔とおしゃべりを毎回とても楽しみにしていました。

何事もものは考えよう、といつも前向きで、病のつらさは一言も洩らさないまま。自分のことより他人のことを心配するようなお人柄でした。笑い話に包みながら、いろんなことを教わったなあとあらためて感じています。

「いつまでも悲しんじょってしょうがなかならうえ。え？どうですか？」明るい声が聞こえてきそうです。ありがとうございました、そしてさようなら、森崎会長。

小寺淑子



あまりにも早く逝ってしまったので残念でなりません。どんなときでも会うとホッとすると、会長は私にとってそんな存在でした。月に1回の例会は楽しみでした。

前向きで明るく物事にこだわらない、決して派手ではないけれど存在感がありました。

もう少しゆっくりと話をしたかったし、食事もしたかったです。寂しいですね。

会長、本当にありがとうございました。

そして、お疲れさまでした。

廣瀬美智子